



獨協大学 SDGs 報告書 2023



学長メッセージ

大学構成員ひとりひとりが社会課題解決の担い手となり、
地域とともにSDGs活動に取り組めます

獨協大学 学長 山路朝彦



本学は、2021年3月、埼玉県内の大学として初めて「埼玉県SDGsパートナー」への登録を行ったことを機に、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲット達成に向けた教育・研究を推進しています。

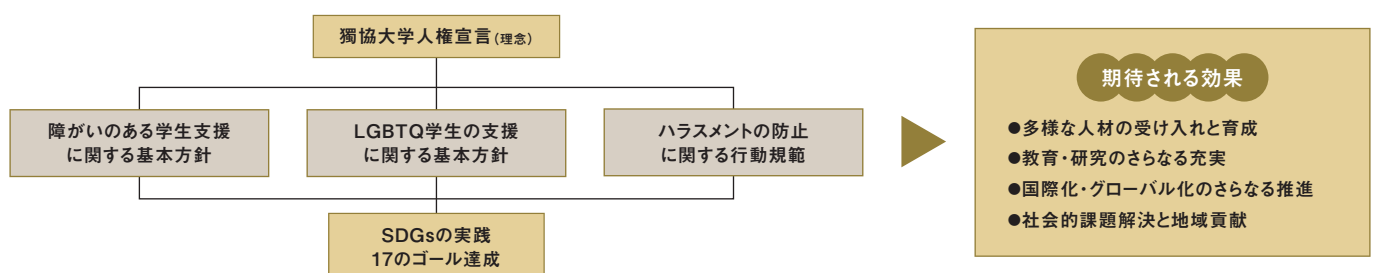
2023年度は、「獨協大学SDGs行動指針」に基づき、①SDGs達成に向けた基本的取組事項(要件)の更新、②2024年度以降のSDGs達成に向けた重点的な取組の目標設定、③草加市とのSDGsパートナー協定の締結、④OiTrの設置(生理用ナプキンの無料提供)、という4つの方針を掲げ、活動に取り組んでまいりました。

方針の1つである草加市とのSDGsパートナー協定の締結については、2023年11月8日に「草加市・獨協大学基本協定 変更協定書締結式」を行いました。草加市と本学は2007年に「草加市・獨協大学協働宣言」および「草加市・獨協大学基本協定書」に調印しており、今回は「基本協定書」にSDGsの文言を盛り込む形で締結しました。草加市にキャンパスを構える本学としては、地域との結びつきは欠かせないものであり、今後ますます連携してSDGs活動に取り組んでまいります。

本学においては、学生、教員、職員そして父母の会が一体となってSDGs活動に取り組んでいます。例えば、学生の取り組みでは、草加市の「そうか革職人会」との共同プロジェクトによる皮革商品のブランド化や、学生主体で運営しているこども食堂の全国大会の開催など、ゼミなどの団体が地域課題に着目した活動を行っています。また、父母の会からは、オリジナルウォーターボトルの配布や給水器の設置など日々の生活から地球規模の課題を意識化できる物品の提供をいただいております。

SDGsの基本理念にある「誰一人取り残さない」社会を実現するには、すべてのひとびとにとってより良い持続可能な社会を築くことが前提となります。今後も本学は、グローバルな視点を持つ地域社会の一員として、自治体、地域住民、NPO/NGO等との連携を深めながら活動を推進してまいります。また、課題解決を担い、社会の発展に寄与する「実践的な独立の人格」の育成に注力するとともに、SDGsの目標達成についての検証も継続してまいります。

【本学におけるSDGs推進のイメージと期待される効果】



獨協大学SDGs行動指針

獨協大学は、学則第1条「社会の要求する学術の理論および応用を研究、教授することによって人間を形成し、あわせて獨協学園の伝統である外国語教育を重視して今後の複雑な国内および国際情勢に対処できる実践的な独立の人格を育成する」の理念の下、社会の発展に寄与するSDGsの達成を担う人材を育成します。

1. 本学構成員のSDGs達成に向けた意識の向上と認識の共有

獨協大学は、学内構成員ひとりひとりがSDGsに関する認識を共有し、持続可能な社会の発展について主体的に考える環境を提供してSDGs啓発活動に取り組みます。

2. 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現

獨協大学は、「獨協大学人権宣言」に基づき、「誰一人取り残さない」社会実現の一翼を担うべく、人権が擁護され、誰もが平等な教育研究の機会を与えられ、人として成長できる場を創造します。また、多様な人材が輝きをもって活躍できるよう「ダイバーシティ(多様性)&インクルージョン(包摂性)の推進」に取り組みます。

3. 地球規模の課題への取り組み

獨協大学は、温室効果ガス削減、貧困と飢餓の撲滅、質の高い教育、社会の平和と公正を含むSDGsの達成に、関係機関とパートナーシップを形成して取り組みます。

4. 地域の課題への取り組み

獨協大学は、地域社会が抱える課題の解決に向けて、自治体、民間セクター、地域住民、NPO/NGO等と連携して取り組みます。

2022年3月 獨協大学

獨協大学人権宣言

獨協大学は、「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念を実現するために、誰もが平等な教育研究の機会を与えられ、その人権が擁護され、人として成長できる場を創造することを宣言します。

1. 獨協大学は、国や地域の法令、建学の理念、学則などの規範を遵守します。

2. 獨協大学は、すべての人間は生まれながらにして平等であるとの認識に立ち、人権を擁護し、多様性を尊重します。学生、教職員、その他関係者は、互いの尊厳を守ります。

3. 獨協大学は、国籍、性別、宗教、年齢、障がいの有無、性的指向・性自認などによる偏見や差別を許しません。人間の尊厳を損なう行為を決して放置せず、健全な教育研究環境と職場環境の整備を加速させます。

4. 獨協大学は、学生、教職員、その他関係者が持つ多様性が創造的な教育研究成果を生み出す体制を整備します。

5. 獨協大学は、地域との連携を深めながら、誰もが互いに人格と個性を認め合い、支え合う共生社会の構築に貢献します。

2020年8月15日 獨協大学

獨協大学環境宣言

私たちは、地域環境や地球環境の保全を重要課題とする社会の責任ある一員として、すべての教育、研究活動を通じて、人々の健康増進と環境保全に寄与することを目標に掲げ、以下のことに積極的に取り組みます。

- ◎ 環境教育、環境研究、環境啓発活動に取り組みます
- ◎ 省エネルギーや環境保全に適合した設備、備品を使用します
- ◎ モノや資源を大切に使うとともに、ゴミの減量化やリサイクルを推進します

2008年6月 獨協大学

持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて

より良い社会の実現に向けて、
行政や地域、NPO/NGOとの連携を強化

SDGs達成に向け地元・草加市と連携を強化

本学と草加市の連携は、1970年の大学公開講座に遡り、これまでも豊かなまちづくりに向けて、様々な分野での取り組みを進めてきました。2007年には、「草加市・獨協大学協働宣言」および「草加市・獨協大学基本協定書」に調印しており、さらに2023年11月8日には、「SDGs達成のための連携」を追記した変更協定書の締結を行いました。

また、締結式の後は、毎年定例開催している獨協大学・草加市連絡会が開催され、近況報告と意見交換が行われました。山川百合子市長は、「だれもが幸せなまち学園都市そうかの発展に向けて」をテーマに報告。山路朝彦学長は、獨協大学前<草加松原>駅西側エリアの「まちづくりイノベーション」について報告しました。



協定書を持つ山路学長(左)と山川草加市長

すべての学生が快適に過ごせるキャンパスの実現に向けた取り組み

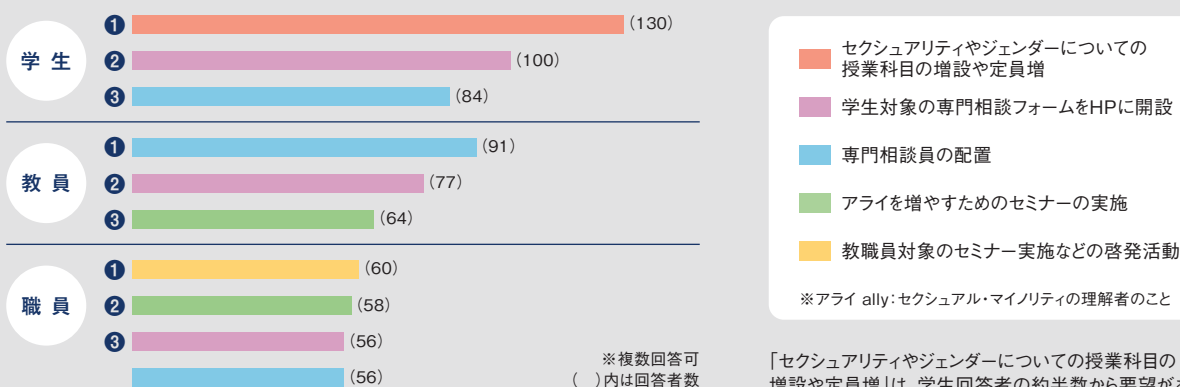
獨協大学ダイバーシティ推進連絡会は、この1年間の啓発活動の成果を検証するため、2023年7月、学生を対象に「獨協大学におけるジェンダーとセクシュアリティの現状に関するアンケート調査」、教職員を対象に「セクシュアル・マイノリティ学生への対応状況把握のためのアンケート調査」を実施しました。調査結果を『獨協大学ニュース』で2回に分けて掲載するとともに、教職員には会議を通じて報告し、学生に対応する際の注意点や好事例を共有しました。

また、学生回答者からの要望を受け、①2024年度秋学期にダイバーシティをテーマとする全学総合講座の開設、②教室棟とコミュニティスクエアの女子トイレにOiTr(オイテル)*18台設置、③ダイバーシティ推進のための企画や情報発信のスタートを決定しました。

*個室トイレに生理用ナプキンを常備し、無料で提供するサービス

「獨協大学が取り組むべき活動は？」で回答が多かった項目 (2023年7月実施のアンケートより)

回答者数:学生269人(全学生の3.2%)、教員161人(全教員の26.0%)、職員118人(全職員の41.7%)



ウクライナからの留学生による講演会を開催

本学は、キウ国立言語大学との協定に基づき、人道的見地から安全な生活と学習の機会を失ったウクライナの学生を2022年9月から受け入れています。2023年11月1日に、国際交流センターは講演会「ウクライナってどんな国ーウクライナ学生の話聞こうー」を開催しました。ウクライナの留学生2名は、約100名の学生や教職員の参加のもと、ウクライナの文学、文化や歴史、食事や音楽などについて、本学で約1年間学んだ日本語で丁寧説明していました。



大学の購買力を活かした地域振興、学生による地域貢献

本学の学生や教職員は、地域の多様な団体との交流を通じて地域振興や人材育成に貢献しています。また、学生にとっては卒論執筆のヒントを得ることもつながっています。

■ 草加かがやき特別支援学校



2022年度より、草加かがやき特別支援学校高等部のみなさんが、実習で作ったパンとお菓子を本学内で定期的に販売しています。本学の学生や教職員が障がいのある方と交流することにより、相互理解と学び合いの場になっています。

■ つばさの森



草加市障害福祉サービス事業所「つばさの森」のみなさんによる手作りの焼き菓子販売を、本学内で定期的に行っています。商品開発やパッケージの工夫など「つばさの森」と連携を深めてきた経済学部・高安健一ゼミの学生も、販売活動に加わっています。

■ 子ども大学そうか



本学と草加市は、2015年より社会教育事業「子ども大学そうか」を共催しています。抽選で選ばれた市内の小学5・6年生計46名が「学生」として本学キャンパス等で全5回の授業を受けます。今回は「SDGsを達成するために草加市の小学生ができること」などについて考え、発表しました。

■ 子ども未来講座(復興知)



福島県田村市教育委員会との協働で、市内の小学5・6年生を対象とした「子ども未来講座」(全6回)を開催しています。2023年は子どもたちが田村市の「今」を英語でプレゼンテーションできるよう、本学教員、学生、留学生がサポートしました。

※公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構による「大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業」の一環として実施

■ 草加国際村一番地



第20回国際交流フェスティバル「草加国際村一番地」が、2023年6月に本学キャンパスで開催されました。世界各国出身の方と草加市民が、本学学生とともに自国の文化、料理、ダンスなどを披露し、交流しました。フェアトレードの紹介や「留学生と交流しよう! ワールドランゲージ」など、本学学生によるイベントも実施しました。

※主催・草加市国際交流協会、共催・獨協大学

■ シルバープログギング



シルバープログギングは、プログギング(ジョギングしながらゴミを拾うこと)を高齢者向けにアレンジしたSDGs活動です。2023年10月に開催された活動*には、本学学生を含む総勢100名以上が参加し、世代を超えた交流を楽しみながら、約1時間半にわたって街のゴミ拾いを行いました。

※主催・公益社団法人草加市シルバー人材センター

学生のゼミ活動

「ユースクリニック」設立に向けた提言活動を展開

スウェーデン発祥のユースクリニックは、若者が男女を問わず、避妊や性感染症を含む身体の悩み、そして心の悩みを気軽に医師などの専門家に相談できる施設です。日本でも設立事例がいくつか認められます。

経済学部・高安健一ゼミの「ユースヘルスマヨリ隊」は、ユースクリニックの普及を目指して、啓発冊子の作成、埼玉県へ提言書提出、埼玉県男女共同参画推進センターでの活動報告などに取り組みました。2022年の雄飛祭で開催したセミナーの様子は、「NHKニュース7」で紹介されました。



「ユースヘルスマヨリ隊」が作成した「ユースクリニック」啓発ツール

学生のゼミ活動 「こども食堂全国大会」開催

経済学部・香取徹ゼミの4年生4名は、地域コミュニティの場としてこども食堂「ほのほのハウス」を運営しています。2023年11月18日に本学で開催された「第5回 学生こども食堂ネットワーク全国大会」では、学生が中心となって運営する全国のこども食堂のメンバーによる発表などの総合進行を担ったほか、埼玉県、NPOなどの方々との連携や意見交換を通じて、新たな活動につながる発見をすることができました。



本学構成員のSDGs達成に向けた意識の向上と 認識の共有



生物多様性に富んだキャンパスで、多様なステークホルダーが互いに意識啓発

生物多様性に富んだキャンパスが育む環境マインド

本学のキャンパスには、昆虫や鳥、小動物が行き来できる緑の回廊が広がり、芝生広場には水田やビオトープになっている小川、東棟3階には里山を再現した屋上庭園があります。2023年8月25日には、草加市環境課に協力して、「そうか生きもの集合調査会」が開催され、幅広い世代の市民がキャンパスや伝右川、松原団地記念公園に生息する多様な生物や植物を観察し、記録に残しました。田植え・稲刈りを体験したり、自然を観察したり、緑豊かなキャンパスで学ぶことで、私たちの暮らしが環境によって成り立っていることに気づき、環境のために自分にできることを考える機会となっています。



緑の回廊



キャンパス内の水田での稲刈り



そうか生きもの集合調査会

学生・教職員・父母の会が一体となったSDGsの促進

本学は、ペットボトルの消費量削減とキャンパスライフの充実を目的に、2022年8月、学内に給水器を2台設置しました。学生からの要望を受け、教職員が検討し実現に至りました。導入後は、経済学部・高安健一ゼミの学生が、啓発用のポスターやリーフレットを作成し、給水器の利用とマイボトル普及を訴えました。

給水器普及活動に賛同した獨協大学父母の会が、オリジナルウォーターボトルを2,000個製作し、2023年6月に学生に無料配布しました。また、給水量の急増に対応するために、父母の会からさらに給水器1台の寄贈を受けました(2024年3月現在計6台設置、うち2台が父母の会による寄贈)。

給水器の取り組みに見られるように、本学では学生、教職員、父母の会が一体となり、SDGsを促進しています。

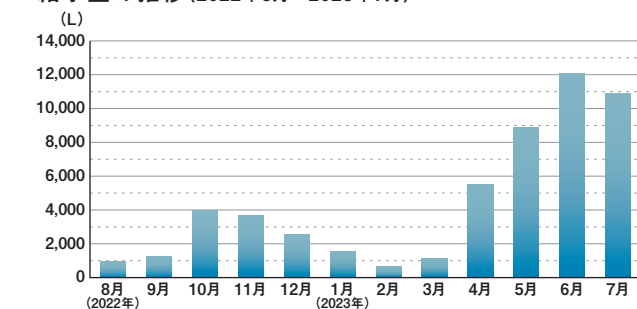


獨協大学父母の会によって配布されたウォーターボトル



学生センター1階に設置された給水器

■ 給水量の推移 (2022年8月～2023年7月)



※給水量を基に算出した。2022年8月から2023年7月までのペットボトル削減本数(500ml換算)は106,242本。3,187kg相当のペットボトルが削減(1本30g換算)

「地球を考える1週間」、獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”を開催

“Earth Week Dokkyo”は、イベント・ワークショップ・授業公開・展示など、本学の学生・教職員が地球のためにできることを自由に企画し、実施するプラットフォームです。電力需要期の6月・12月の年2回開催しています。2023年度は、「カヌー体験会」「草加の野菜を食べよう!〜ピザ窯で作るピッツァ〜」「難民の話を聴く会」「留学生と考える地球温暖化問題」「福島復興支援物産展」「LGBTQ人生ゲーム」「fair tradeチョコバナナワークショップ」など、多彩なイベントを実施しました。



カヌー体験会



ピザ窯イベントで実施したfair tradeチョコバナナワークショップ

地球規模の課題・地域の課題への取り組み



大学としての省エネや地域振興、
学生による環境意識啓発や地域産業への貢献

「獨協大学コミュニティスクエア」がCASBEE Sランク認証取得

2023年4月にオープンした獨協大学コミュニティスクエアは、「学術研究・教育活動×地域との開放的な交流の場」をコンセプトにしており、これまでに「雄飛祭」をはじめ「古典ギター部やマンドリンクラブによるランチタイム コンサート」や「草加松原団地自治会設立60周年記念式典」の会場として活用されてきました。この建物は、太陽光発電システム、自然換気、高断熱などの省エネ技術を取り込み、年間エネルギー収支がゼロとなる建築物（完全ZEB*）として国土交通省「サステナブル建築物等先導事業」の補助金事業に採択されているほか、CASBEE（建築環境総合性能評価システム）において最高位であるSランク認定を取得しています。

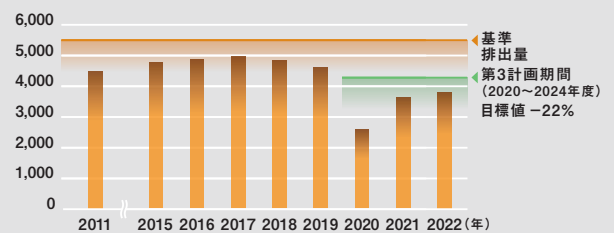
*Net Zero Energy Buildingの略



CO2排出量削減（省エネ）活動

本学では、自然エネルギー利用促進のため、2007年竣工の天野貞祐記念館以降、新たな建物には太陽光発電装置を設置し、現在では、約363kW（一般家庭120軒以上に相当）の設備容量で発電をしています。また、「Earth Week Dokkyo」での「全学ライトダウンプロジェクト」の効果が大きかったことから、大学としての省エネ施策へと発展させ、現在に至っています。さらに照明のLED化や省エネ設備への置き換え、各棟に配置した分散型発電システムによる電力ピークの抑制効果で、契約電力を2,300kWから1,700kWに下げること成功しています。なお、コミュニティスクエアにも約90kWの太陽光発電装置を設置し、さらなる省CO2を目指しています。

■ 獨協大学のCO2削減目標と排出量の年間推移（単位:t-CO2）



※電気の排出係数=0.495で計算
※基準排出量は2004~2006年度の3年間平均値

学生のゼミ活動 バイオマスプラスチック容器の弁当を販売

経済学部・香取徹ゼミの4年生3名は、「プラスチックの代替を通じた持続可能性の実現と環境意識改善」をテーマに、学内で販売する弁当容器のバイオマスプラスチックへの代替に取り組みました。容器素材や販売価格の検討をはじめ、SNSやポスターでの広報などを行い、学生食堂でアンケート調査を実施したところ、販売前後でバイオマスプラスチックの認知度が向上したという結果が得られました。



学内スタイルカフェでの販売時の様子と告知ポスター



学生のゼミ活動 草加市の皮革産業の活性化に貢献

草加市の皮革製品は、草加せんべい、本染浴衣とともに、伝統産業の一つに数えられています。経済学部・高安健一ゼミの3年生7名による「SOKA LEATHER SAVORチーム」は、そうか革職人会とのコラボレーションにより新ブランド「UNISOLE（ユニソレ）」を立ち上げ、2023年11月には草加マルイにて、自らデザイン・製造した皮革製品を販売。このプロジェクト型課題解決学習（PBL）の成果は2024年1月に、NHK「首都圏ネットワーク」で紹介されました。



草加マルイにてオリジナルの皮革製品を販売

2023年 おもなSDGs活動一覧

1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1月17日～3月末 図書館展示 冬の特集「SDGs —SDGsに関する認識を共有し、持続可能な社会の発展について主体的に考えてみよう—」 ○ 1月18日 「つばさの森」による手作り焼き菓子販売 (6月16日、11月4・5・8・9・10日にも実施) 表紙写真① ○ 1月24日～2月10日 障がいのある学生支援に関する調査を実施 (7月24日～8月20日にも実施) 	 「獨協大学SDGs新聞」
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2月 障がいのある学生からの相談を受け、支援の調整等を行う専門部署「学生支援室」を新設 ○ 2月4日 経済学部・高安ゼミが「第21回With You さいたまフェスティバル」で調査成果を発表 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3月13日 獨協大学コミュニティスクエア竣工式を挙行 表紙写真② ○ 3月31日 バリアフリートイレの表示(サイン)を「あんしんトイレ」(多機能トイレ)に変更 	 SDGs貢献グッズの扇子
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4月3日 SDGs貢献グッズ販売開始(ステンレスボトルやカトラリーセット、6月6日より扇子を販売) 表紙写真③ ○ 4月19日 学友会委員長らがトルコ・シリア地震被災者への募金をトルコ大使館に寄付 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5月 経済学部・高安ゼミが「獨協大学SDGs新聞」を発行 ○ 5月23日 経済学部・米山ゼミがゴーヤの苗を配布 	 草加かがやき特別支援学校 手作りパン
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6月11日 第20回国際交流フェスティバル「草加国際村一番地」開催 ○ 6月24日 経済学部・高安ゼミが「大学生によるあだち未来スケッチ ACTION」にて活動報告 ○ 6月26日～7月1日 獨協大学環境週間"Earth Week Dokkyo 2023～Summer～"開催 ○ 6月30日 留学生交流会「日本と世界の地球温暖化対策を考えてみよう!」開催 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月2日 福島県田村市で「子ども未来講座」開講(7月～12月、月1回開催、全6回) 表紙写真④ ○ 7月7日 管弦楽部が草加かがやき特別支援学校でコンサートを開催 表紙写真⑤ ○ 7月12日～8月8日 学生対象「獨協大学におけるジェンダーとセクシュアリティの現状に関するアンケート調査」を実施 教職員対象「セクシュアル・マイノリティ学生への対応状況把握のためのアンケート調査」を実施 ○ 7月14日 草加かがやき特別支援学校の生徒による手作りパンの販売(10月13日、12月8日にも実施) 表紙写真⑥ ○ 7月22日 2023年度「子ども大学そうか」入学式と第1回講義を実施 (全5回の講義のうち、第1回と第4回(10月28日)を本学教員が担当) 	 高安ゼミの皮革製品
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8月1日～9月22日 夏休み中の高校生・予備校生への図書館開放 ○ 8月26日 経済学部・香取ゼミがこども食堂「ほのぼのハウス」開催 	 "Earth Week Dokkyo"
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9月30日 外国語学部の学生が中学生英語検定試験学習会の講師を担当 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 10月6日 学生食堂で「防災豚汁うどん」を提供(以降、防災コラボメニューを計8回提供) 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">表紙掲載写真</p>  <p style="font-size: small; margin: 5px 0;">⑦の写真は東武よみうり新聞社提供</p> </div>
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 11月1日 「ウクライナってどんな国—ウクライナ学生の話を聞こう—」を開催 ○ 11月8日 SDGs達成に向け連携を強化:草加市・獨協大学基本協定の変更協定書を締結 ○ 11月17日～23日 経済学部・高安ゼミが皮革製品の展示・販売会を草加マルイで開催 表紙写真⑦ 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 12月4日～9日 獨協大学環境週間"Earth Week Dokkyo 2023～Winter～"開催 ○ 12月16日 経済学部・高安ゼミが松原2・3丁目の子育て世代を対象とした防災イベントを実施 	

